広報『富士見』（毎月1日発行）は、市内の公共施設や駅などにも置いています。声の広報『富士見』（音声DAISY（デイジー）版）は市内図書館で貸し出しています（市ホームページで聴くこともできます）。



今月のFujimist

佐藤 大介 さん（陸上）

取材 シティプロモーション課 ☎049-256-9535

憧れの大舞台“箱根駅伝”

「小学5年生の時、親と一緒に大手町で“箱根駅伝”のゴールの瞬間を見届けました。多くの観客が見守る光景に衝撃を受け、今でも鮮明に覚えています。そこから少しずつ“箱根駅伝”に憧れを抱くようになりました」そう語るのは、市内出身で中央大学陸上競技部3年生の佐藤大介さん。

小学校の持久走大会では一桁台の順位が多く、周りよりも速く、そして長く走れることが自分の長所であることに気付いた。中学校で陸上部に所属し、本格的に陸上競技に取り組み始めたが、目立った成績は残せなかったと言う。

佐藤さんの“走り”が開花し始めたのは、埼玉栄高校に進学してから。始めは、練習量のギャップやケガの影響に悩まされ、思うような1年目を過ごせなかった。「課題に対して、聞いたり調べたりして、まずは自分で原因を考える。自分なりに分析したことを練習に落とし込み、取り組む中で徐々に結果が出るようになった」と挫折から脱し、高校2年生ではインターハイに出場するまでに成長を遂げた高校時代を振り返った。

伝統校の誇りと襷を胸に

中央大学に進学し、1年生にして憧れの“箱根駅伝”への出場機会を得た。襷を託され、走ったのは第8区。平塚中継所から戸塚中継所までの走路は、序盤は平坦な道が続くものの、終盤に難所「遊行寺（ゆぎょうじ）の坂」が待ち受ける。「箱根駅伝はほかの大会にはない独特な雰囲気や緊張感があり、中々ペースがつかめず、低体温症になってしまった。陸上人生で初めての失敗でした」と、“箱根駅伝”の難しさを痛感することに。それでも、「1年目でこの経験ができたことは、陸上人生にとって大きな財産。ここからは這い上がるしかない」と気持ちを切り替えた。もう一度、成長した自分で“箱根駅伝”を走る、その一心で陸上と向き合った。そして迎えた2回目の“箱根駅伝”、再び走るのは前年苦戦した第8区。箱根で輝くための1年間が実を結び、区間4位の好成績を収めた。

「目標は総合優勝と区間賞。これまで支えてくれた家族やみんなに“走り”で恩返しがしたい」そう語る佐藤さんの目は、あの時みた大歓声の大手町が真紅に染まる姿を映していた。

■市公式ホームページ

■ SNS
LINE
Facebook
X(旧Twitter)
Instagram
YouTube

【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で

【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで

【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

Fujimist募集

市内在住、富士見市出身の方などで活躍されている方を募集しています。自薦・他薦は問いません。

みんな笑顔☆ふじみ
富士見市
☎049-251-2711（代）
FAX 049-254-2000
〒354-8511
富士見市大字鶴馬1800-1

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
富士見市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

VEGETABLE OIL INK
古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
UD FONT by MORISAWA